

題目：自由と競争～関係流動性が恋愛市場における競争性に与える影響～

氏名：木村文

指導教官：結城雅樹

人々は、恋愛関係において魅力的な異性をパートナーとして手に入れるため、「ライバルとの争い」を経験する。先行研究 (Schmitt et al., 2004) では、恋人をめぐる競争の頻度に文化差があることが示されており、文化差の起因については、主に経済的な豊かさによる説明がなされている。本研究では、競争性の文化差について、新たな視点として、社会生態学的アプローチの観点から検討することを試みる。具体的には、ある社会や社会状況において新しく対人関係を構築できる機会の多寡を示す関係流動性 (Yuki et. al., 2007) が異なることが先行研究で示されている日本とカナダにおいて、恋愛関係における競争性について比較検討を行う。

高関係流動性社会であるカナダでは、恋愛関係において、関係形成・離脱の自由度が高いため、自分にとってより有益な相手がいれば乗り換えることができる。こうした社会では、魅力的な相手に関係形成を求める他者が殺到し、恋愛関係における競争が起きやすくなると考えられる。一方、低関係流動性社会である日本では、恋愛関係において、関係形成・離脱の自由度が低いため、自分にとってより魅力的な相手を見つけて関係形成を求めることや、パートナーをめぐるライバルとの競争も起こりにくいと考えられる。

以上の仮説を検証するため、本研究では、日本とカナダにおいて、恋愛関係におけるパートナーをめぐる競争性に関する質問紙調査を行い、当該社会の関係流動性をより反映していると考えられる在大学生を対象に日加比較を行った。

その結果、予測と合致して、低関係流動性社会である日本に比べ、高関係流動性社会であるカナダで、人々の恋人獲得動機が高く、恋愛関係流動度が高く、恋人の奪い合いが起きやすいことが明らかとなった。恋愛関係競争性が日本よりもカナダで高く、競争回避傾向がカナダよりも日本で高いことも、一部ではあるが実証された。しかし、恋愛関係競争性と関係流動性との間の関連はあまり見られなかった。その理由として、恋愛関係競争性尺度に改善の余地があることや、本研究で用いた関係流動性尺度は、同世代の対人関係一般について尋ねたものであったことが挙げられる。そのため、恋愛関係競争性尺度の改善を行うことや、ターゲットを恋愛市場に絞った関係流動性尺度を用いて研究を行うことが今後の課題である。